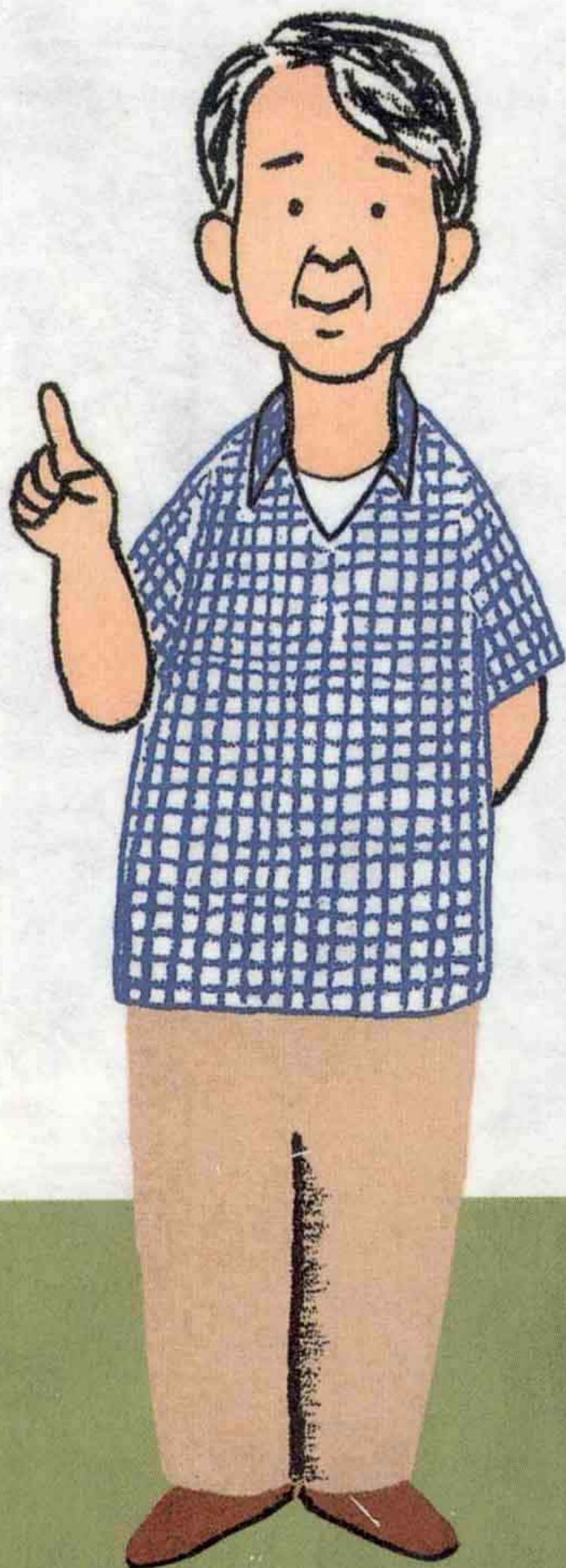


なつかしい言葉
の辞典○泉麻人



SB文庫

なつかしい言葉の辞典

2005年12月27日 初版発行

著者 泉 麻人

発行者 新田光敏

発行所 ソフトバンク クリエイティブ株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂4-13-13
電話 03(5549)1201(営業部)

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

デザイン 南伸坊
カバー・イラスト 石野点子
本文イラスト 佐伯克介
本文組版 谷敦

落丁本、乱丁本は、小社営業部にてお取り替えいたします。

定価は、カバーに記載されております。

本書に関するご質問等は、小社第2書籍編集部まで
必ず書面にてお願いいたします。

なつかしい言葉の辞典

泉 麻人



まえがき

この数年、言葉（日本語）をテーマにした本が話題になっているようです。そんな“日本謡本ブーム”のさなか、編集者から「泉さんの世代にとって、なつかしい言葉を集めたような本を書いてみませんか……」などと依頼されました。

なつかしい言葉か、うゝむ……。

僕はまず、幼少期の昭和三十年代、思春期の昭和四十年代、大学に上がる昭和五十年代、くらいまでの“時代枠”を作って、思い浮かんでくる流行語や俗語、の類いを書き出してみました。

シェー、ガチョーン、びっくりしたなあもう、イカス、シビレル、やったぜ

ベイビー、どっちらけ、なんちゃって……。

しかしどうも、そういったマスコミを媒体に世に広まった、いわゆる「流行語」の諸々というのは、それほど「なつかしい」という感情が湧きあがってこない。死語辞典、のような切り口ならば、作りようもあるけれど、郷愁の琴線にジン、とふれるものが感じられない。書き出しているうちに、流行語とまではいえない、往時の子供まわりの常套文句のいくつかが浮かびあがってきました。

デブデブ百貫デブ……。おまえのかーちゃんデベソ。オーカネだヒロオか、ヨシだ。ウダガワウンコロモチウネモトウネジ……。

そうだ、そうだ、こういう奇妙な呪文みたいな文句がいろいろとあったものだ。出所はハッキリしないけれど、カン蹴りとか手打ち野球をやった、原っぱや路地裏の景色がリアルに回想されてくる。カン蹴りといえば、あの遊びで使っていた「ポコペン」って決まり文句も不思議だったし、ちよっとモメごとが生じたときに、誰かが必ず口走る「絶交だ！」なんて物言いも、なつかしい。

このセンでまとめてみようではないか……。

というわけで、主に僕の子供時代（昭和三十年代後半～四十年代はじめ）の“近所”の風景が浮かんでくるようなフリーズ、の数々を思い起こす作業に励んだわけであります。

小学校の始業式で靴の踏み合いから大ゲンカして仲良しになった石川クン、髪を横分けにしていたキザな山崎クン、とりもちでセミを採ってくれたサオダケ屋のヤッちゃんという兄貴分、ハシカや水ぼうそうのときに黒カバンを提げ（さ）て往診にやってくる小児科医のタカスギ先生、ヨーモトニックを頭にバサバサ振りかけていたヒデヤおじさん……そんな身近にいた友人や町の人々の風体、その舞台である近所の路地、わが家の茶の間……記憶のビデオを再生するように、言葉の摘み出しを進めていきました。

とはいえ、喋り言葉だけではコマに限りがあります。名詞（生活用具をはじめとした固有名詞など）のなかにも、なつかしい響きをもつ言葉がいくつか思いあたる。

蚊帳、肝油、懐中じるこ、石綿金網、ひまし油、幻灯会……。消えた風物、あるいは廃れた呼び名でなくても、いまでも時折見掛ける夏の季語「納涼」、蚊の幼虫を表わす「ボウフラ」なんて言葉には、なんとなく昭和三十年代調の郷愁感をおぼえるものです。

ボウフラをフューチャーしておいて、ウジ虫をなぜ入れない、と文句を付けられても困るのですが、ま、その辺の「選語」の基準は趣味の問題、としかこたえられません。

では、次の目次のページをめくってみてください。言葉の並びの背景に、なつかしい商店街や路地裏の光景、などを重ねていただければ幸いです。

なつかしい言葉の辞典◆もくじ

まえがき 3

アカデンプ 15

アメリカシロヒトリ 19

石綿金網 22

ウダガワウンコロモチ 26

うんてい／遊動円木 28

えんがちよ（切った） 32

往診 35

王・金田・広岡・吉田 39
おー カネだ ひろおか ヨシだ

オーライツ 43

おごつてくれよう 47

オスメスキスパンツ脱げ 51

おたんこなす 54

懷中じるこ 57

蚊帳^{かや} 60

花柳病 63

ガンコオヤジ 65

肝油 68

グリコ・チョコレート・パイナップル 72

クルクル 76

グレン隊 79

現代っ子 82

幻灯会 85

酒ブタ 89

サバいうな 94

シノコシヨ― 97

傷痍軍人 101

少年合唱団 105

しよつてゐる 111

すかしやがつて 114

スタミナ 117

絶交 120

そうしきまんじゅう 123

大懸賞 127

タイツ 131

タイミング 135

たどん 138

ちえつ 141

乳もみ 144

でべそ 149

デラックス 153

伝書鳩 157

トラホーム 162

とりこ 166

とりとりじゃん 170

とんま 173

ヌガー 176

納涼 179

パイ缶 182

ひともしごろ 186

ビフテキ 190

ひまし油 194

百貫デブ 198

分解写真 202

ヘップ 205

へのへのもへじ 207

ボウフラ 210

ポコペン 213

ぼんのくぼ 218

罷り通る 222

マツカチン 226

豆電球 230

夢の超特急 233

ヨーモトニツク 236

ライスカレー 239

霊柩車 242

ロクブテ 246

あとがき 249

アカデンプ

幼稚園の頃の“お弁当”の時間を回想してみる。誰が作ったのか知らないけれど、僕らの時代は先生の指揮のもと、♪おべんとおべんとたのしいなゝなんて唄を弁当箱を開く前に合唱したものである。ちなみにこのお弁当の時間の唄は、時代によって楽曲が変わっているようだ。

その時代、ちょっとシャレた子は銀紙に包んだサンドウィッチなんかを持ってきていたけれど、大方は弁当箱に入ったメシモノであった。弁当箱はただの金色^{かな}のやつだけじゃなく、すでにポパイやミッキーマウスや、よくわからない犬のマンガなんか描かれた、キャラクターモノがけっこう普及していた、ように思う。